

令和3年度 登録販売者生涯学習研修確認テスト 第6講座『便通異常』

問1.【受診勧奨】受診勧奨が適当と思われる症状には○、セルフメディケーションが可能なら×を記入して下さい。

(1) 受診を勧めるべき生命に関わる緊急性の高い重大な症状ではないか？

- ①短時間に鋭い痛みが起こっては和らぐが、痛みは次第に強まっている。お腹が張るが便もガスも出ない。
- ②腹痛とともに便秘と下痢を頻繁に繰り返す。
- ③突然の激しい下腹痛を伴って下痢。一度おさまったが、しばらく経つとまた腹痛が起こり、今度は血便が。
- ④水様便が続く、たちまち体重が1割近く減って、どうも体が変わる。

(2) その他、受診を勧めるべき症状ではないか？

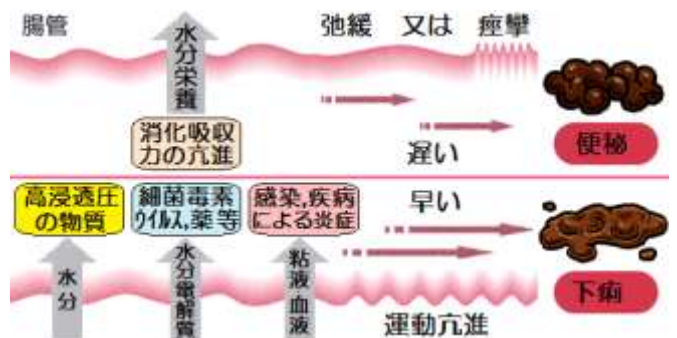
- ①最近、下腹部痛を伴って便意が切迫するようになり、たびたび下痢をする。便に血と粘液が混じるようだ。肉体的、精神的ストレスが強まった時に増悪する。
- ②腹痛もなく突然に下痢のような（塊のない）赤黒い血が出た。
- ③お腹が痛み（主に右側）、下痢ときに悪心・嘔吐が繰り返しあらわれる。山梔子さんししの入った漢方薬を長期服用中。
- ④色の薄い軟らかい便が大量に出て、臭いもひどい。浮いて便器壁に付着し、流そうとしても流れにくい。
- ⑤便秘するようになった。倦怠感が強く、いつも眠い。寒さに弱くなった。顔は浮腫みっぽく体重が増えた。

問2.【セルフメディケーションでも対応できる便通異常】空欄に当てはまる適語を下欄から選んで下さい。

・精神的ストレス等で自律神経が乱れて大腸の運動が亢進したとき、腹痛を伴って軟便ないし泥状便になるのは（ ① ）、痙攣してコロコロ便の便秘になるのは（ ② ）。また、これらを繰り返すこともある。下痢には腸管運動抑制成分を第一選択とし、便秘に刺激性下剤は不可。過敏性腸症候群なら消化管運動調律剤が使える。

・（ ③ ）は、運動不足、筋力低下、極端なダイエットなどにより、腸管の蠕動運動や緊張が低下、便の滞留時間が延びて硬い便になる。塩類下剤、膨張性下剤を優先する。（ ④ ）は、瀉下薬の使い過ぎや便意を我慢してしまう人に多い。排便習慣を取り戻すことが大事。

・Mg製剤、キシリトール等によって水分が残留する（ ⑤ ）では、原因となるものの摂取をやめ、生菌製剤で腸内細菌叢のバランスを整える。細菌毒素、腸管病原性ウイルス、非吸収性の食事、脂肪、薬物等により電解質と水分の分泌が吸収を上回った（ ⑥ ）では止めず、殺菌成分、吸着成分を優先する。



- A. 痙攣性便秘 B. 直腸性便秘 C. 弛緩性便秘 D. 運動亢進性下痢 E. 分泌性下痢 F. 浸透圧性下痢

問3.【一般用医薬品の使い分け】

(1) 次の説明に該当する便通異常に用いる成分を下欄から選んで下さい。

- ①蠕動抑制作用には、腸壁内コリン作動性ニューロンの機能の抑制及びアセチルコリンとプロスタグランジンの放出の抑制が関与していると考えられている。また、水、Na及びClの腸管腔内への分泌を抑制する。
- ②腸で腓液により徐々に分解、遊離したタンニン酸の緩和な収れん作用により止瀉作用を示す。
- ③胃及び腸管内における異常有害物質、過剰の水分又は粘液などを吸着し、収斂・止瀉作用をあらわす。
- ④腸管の蠕動運動を抑制するとともに、胆汁分泌作用によって下痢を起こす病原性細菌の増殖を阻止する。
- ⑤感染性の下痢に有効。さらに、腸管内での水分分泌調節と、大腸の運動亢進の正常化作用をもつ。
- ⑥腸内容物の浸透圧を高めて水分量を増す塩類下剤成分。
- ⑦腸管内で水分を吸収して糞便の容積を増やすとともに糞便を柔らかくする膨張性瀉下成分。
- ⑧糞便中に水分が浸透しやすくする界面活性成分。

- A. ジオクチルソジウムスルホサクシネート B. 木クレオソート C. ロートエキス D. 乳酸菌 E. トリメブチンマレイン酸塩
 F. ベルベリン塩化物水和物 G. ロペラミド塩酸塩 H. プランタゴオバタ種皮(子) J. 酸化マグネシウム
 K. 天然ケイ酸アルミニウム L. タンニン酸アルブミン M. ピコスルファートナトリウム N. 次硝酸ビスマス

(2) 承認基準に基づく漢方製剤の例を適応体力ごとにまとめました。() の処方を下欄から選んで下さい。

「胃腸炎」又は「下痢」の効能・効果を持つ処方				
体力充実・比較的体力がある	体力中等度	やや虚弱	体力虚弱	
なし(現在の基準では、「体力中等度以上」に九味檳榔湯、平胃散の2処方があるのみ)	(①)、 <small>かつこんおうれんおうごんとう</small> 葛根黄連黄芩湯、 <small>はんげしゃんとう</small> 半夏瀉心湯	/	<small>にんじんとう</small> 人参湯(理中丸)、 <small>しょうけんちゅう</small> 小建中湯、 <small>けいしにんじんとう</small> 桂枝人参湯、(③)	
	←(②)→			
	← <small>かつこうしょうきさん</small> 藿香正気散、(④)、 <small>とうきしぎやくかごしゅゆしょうきょうとう</small> 当帰四逆加呉茱萸生姜湯、 <small>いふうとう</small> 胃風湯→			
← (⑤) (体力に関わらず使用できる) →				
A. <small>しんぶとう</small> 真武湯 B. <small>けいしにかしやくやくとう</small> 桂枝加芍薬湯 C. <small>ごれいさん</small> 五苓散 D. <small>いれいとう</small> 胃苓湯 E. <small>さいこけいしとう</small> 柴胡桂枝湯 F. <small>かつこんとう</small> 葛根湯				

「便秘」の効能・効果を持つ処方				
体力充実	比較的体力がある	体力中等度	やや虚弱	体力虚弱
← <small>だいきいこうとう</small> 大柴胡湯、(①)→	← <small>けいしかしやくやくだいおうとう</small> 桂枝加芍薬大黃湯、 <small>けいしかしやくやくとう</small> 桂枝加芍薬湯、(②) →			
← <small>おつじとう</small> 乙字湯、 <small>さんおうしゃんとう</small> 三黄瀉心湯、 <small>とうかくじょうきとう</small> 桃核承気湯、(③)→				
		← (④) →		
		← (⑤) →		
← (⑥) (体力に関わらず使用できる) →				
A. <small>だいおうかんぞうとう</small> 大黃甘草湯 B. <small>ぼうふうつうしょうさん</small> 防風通聖散 C. <small>さいこかりゅうこつぼれとう</small> 柴胡加竜骨牡蛎湯 D. <small>ちょういじょうきとう</small> 調胃承気湯 E. <small>ましにんがん</small> 麻子仁丸 F. <small>じゅんちやうとう</small> 潤腸湯				

問4. 【患者情報確認・生活スタイル】添付文書に照らして、最も適当な語句を選んで下さい。

- ・止瀉薬ではビスマス塩類、(①)、ロートエキス又はロペラミドを配合する製剤で、瀉下薬では生菌製剤とビタミンB₁主薬製剤以外で、「妊婦又は妊娠していると思われる人」は相談するよう記載されている。
- ・(②) は、禁止事項に「服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないこと」「授乳中の人は本剤を服用しないか、本剤を服用する場合は授乳を避けること」、相談事項に「排尿困難のある人」「緑内障若しくは心臓病の診断を受けた人」の記載がある。また、この成分によって便秘につながることもある。
- ・(③) は、禁止事項に「服用後、乗物又は機械類の運転操作をしないこと」「服用前後は飲酒しないこと」、相談事項に「便秘を避けなければならない肛門疾患等のある人」「授乳中の人」の記載がある。
- ・(④) は、吸収量増加や蓄積を防ぐため、「服用前後は飲酒しないこと」、「1週間以上継続して服用しないこと」、「胃・十二指腸潰瘍の診断を受けた人は服用前に相談すること」が記載されている。
- ・(⑤) は、乳製カゼインに由来しているため、牛乳アレルギーのある人は使用してはならない。
- ・(⑥) 配合止瀉薬には、「甲状腺機能障害の診断を受けた人」は相談するよう記載されている。
- ・(⑦) 製剤には、禁止事項に「透析療法を受けている人」、相談事項に「腎臓病の診断を受けた人」の記載がある。
- ・便秘の副作用のある医薬品は多いので、服用薬を確認する。また、内服用痔疾薬、婦人薬、胃腸薬、漢方薬には(⑧) を配合していながら「便秘」の効能・効果がない製品もあり、瀉下薬との併用に注意が要る。
- ・(⑨) の相談事項には、「高齢者」「心臓病の診断を受けた人」「痔出血の症状がある人」が記載されている。
- ・(⑩) の瀉下薬は、「高齢者」、「腎臓病の診断を受けた人」は、相談するよう記載がある。
- ・糖化菌の一つである(⑪) を含有する製剤は、「ワルファリン」を服用している人に要注意。

A. ビフィズス菌	B. 納豆菌	C. ロペラミド塩酸塩	D. ロートエキス	E. ビスマス塩類	F. カルシウム塩
G. 天然ケイ酸アルミニウム	H. 酸化マグネシウム	I. ウルソデオキシコール酸	J. タンニン酸アルブミン		
K. グリセリン浣腸	L. カンゾウ	M. ダイオウ			

問5. 【アドバイス】次の文章が正しいものには○を、誤っているものには×を、解答欄に記入して下さい。

- ①水瀉性下痢の時は、糖尿病で薬物治療をしている人は、低血糖を起こさないように注意する必要がある。
- ②浣腸薬の使用後、すぐに排便を試みると薬剤のみ排出されてしまうため、便意が強まるまで我慢して下さい。
- ③浣腸薬による排便直後は、安静にして下さい。
- ④ピサコジルの内服薬はよく効くので、腹痛をおこしやすいなら、半分に分けてのんでもかまいません。
- ⑤高タンパク質、高脂肪食は善玉菌を増やすので、高脂血症には注意しながらしっかり食べましょう。